Scout Voice ISHIKAWA スカウトボイス石川 Vol.7

発行：ボーイスカウト石川県連盟
石川県金沢市平和町 1-3-1
石川県平和町庁舎内
発行責任者：野田 政弘
編集責任者：宮東 剛文
平成 29 年 11 月 30 日発行

Leaders Voice

「やっぱりキャンプって素敵」
（スカウトコース石川第１期に参加して）
金沢第２２団　団委員　宮崎　二三代

指導者訓練体系の改定により、ＷＢ研修所「スカウトコース」野営技能３泊４日と「課程別研修」（別日程７時間）の開催が決まりました。石川第１期は５月３～６日に小松の西俣自然教室で行われ、課程別研修は６月１１日にＢＳの課程とＶＳ過程が石川県で開催されます。

石川第１期！！これは参加しなくっちゃと意欲満々…！？実際は野営技能全般には自信がありません。事前課題などもあり不安でしたが、団のリーダーにロープやコンパスについて教えていただいたり、課題研修認定時にＡ型テントの設営など事前支援を受けることが出来ました。お陰様でキャンプ当日は、期待感いっぱいで迎えることが出来ました。

ボーイ隊として過ごす実際のキャンプ生活の中では、スカウト教育に対する沢山の気づきと隊リーダーや支援者の方々の役割や実際の行動知ることが出来ました。協力しながら班を作り上げていく、一人一人の個性が班長を中心にまとまっていく…野外でなければ感じることが出来ないと思われる充実感と達成感でした。

初めてのキャンプ恒例ともいわれる（？）時間に間に合わず夕食を食べれないという事態とその対処の仕方。班ハイクでの地域の方との温かい触れ合い。そして隊集会班対抗競技ローマの戦車では、優勝することが出来ました。

自然の中で同じ目的を持った仲間とキャンプが出来るなんて素敵！と私がテントの中で感慨に浸っている間…スタッフの方々は夜遅くまで会議をして次の日の準備をして下さっていました。私たちの活動はいつもたくさんの方々の支援で成り立っています。感謝の気持ちを原動力にして、スカウト運動の楽しさを沢山の方へ伝えたいと思います。

スカウトボイス原稿募集

スカウトボイスは、石川県連盟所属のスカウトの声を幅広くお届けする情報誌です。「隊キャンプに行きました」「募金活動をしました」などなどスカウト活動に関する記事をお寄せください。

手書きの原稿も受け付けております。スキャナー取り込みデータまたは原稿をカメラで写して下記投稿フォームよりお送りください。

併せて写真もお寄せください。

写真・スカウトボイス投稿フォーム
http://scout-ishikawa.jp/member-info/
Text、Word、Excel、PDF、JPG 等々に対応

プログラムレポート

平成 29 年度年次総会
17NSJ　石川県連盟 1 年前総結集祭

平成 29年5月14日、金沢日航ホテルにてボーイスカウト石川県連盟年次総会が開催され、28年度事業報告、決算及び２９年度コミ教育指導方針と予算案、１７NSJ 県連盟特別予算案の審議が行われた。

年次総会終了後、総結集祭が執行された。野田理事長の結集祭宣言、谷本知事の挨拶、国会議員の先生方、藤井会長、開催地の泉谷市長の祝辞をいただき、珠洲市の馬緤地区に伝わる子供キリコ太鼓の演奏で、結集祭は一気に盛り上がった。

珠洲市の馬緤地区の子供キリコ太鼓

17NSJ の成功を誓う連盟長と珠洲 1 団の指導者

スカウトスクエア石川

平成 29 年 7 月 27 日～8 月 2 日、金沢市鞍月石川県庁 19 階展望ロビーにて、スカウトスクエア石川が開催された。第 17 回日本ジャンボリー開催の PR を兼ねて、各団からの活動紹介や作品展示が行われた。作品の出展に協力していただいたスカウトの皆さん、ありがとうございました。

ボーイスカウト×ユニクロ
難民支援衣料回収プロジェクト

皆様の着なくなった服を”ユニクロ”に！
私たちボーイスカウトにできること。

ボーイスカウト日本連盟では、難民支援を目的とした「難民支援衣料回収プロジェクト」を2015年秋から実施しています。これまでに４万着以上の衣料を回収することができました。回収した衣料は、（株）ユニクロ、および国連難民高等弁務官事務所により難民キャンプへと届けられています。このキャンペーンは、春と秋の年２回行っています。

今回、金沢第22団のスカウトが、難民支援衣料回収プロジェクトに参加し、不要となった衣類が、ご協力いただいた方の温かい心とともに届けられました。今回参加できなかった団や隊におかれましては、趣旨をよく理解したうえで、参加してみてはいかがでしょうか。詳細はボーイスカウト日本連盟ホームページで確認してください。
https://www.scout.or.jp/support_for_refugees/index.html

BP Voice

『班長へのひとこと』

君たち班長は、班員一人ひとりを掌握して立派な人間にすることができるのだから、私は、君たちが自分一人の力で、班員を進んで訓練してほしいと思う。一人か二人の優れた少年がいても、あとがみんなだめでは何にもならない。どの少年をも公平にりっぱな者にするように努力しなければいけない。君たちのすることは、班のスカウトがみんなまねをするから、君たちが手本を示すことが何よりも大切だ。

口頭で与えられた命令でも、文書で示された規則でもそれに従い、隊長がいようといまいと、それを実行することをみせたまえ。君たちが技能章をとってみせれば、班員は言われなくてもとるように努力するだろう。

忘れてならないのは、君たちが先にたってやってみせることで、やるように押しつけてはいけないのだ。（スカウティング・フォアボーイズより）

写真紹介

『県庁展望台からみた金沢港』

７月、石川県庁展望台からの見晴らしがあまりにも素晴らしかったので写真に収めました。

『シシ神様現る？』

４月、小松市尾小屋地区を訪れたとき、映画「もののけ姫」の一場面のように、カモシカと遭遇。しばらく見つめ合ったあとで、シャッター。

Supporters Voice

『国民性と教育』

ボーイスカウト石川県連盟広報委員長

今年 8 月、5 泊 6 日の日程で、カナダのバンクーバーに行ってきました。数年前の冬のオリンピックの開催地です。バンクーバー国際空港を降りた日本人は、まず空港出口で列をなすタクシーに驚くことでしょう。すべてのタクシーがトヨタのプリウス。地元の方の話では、カナダは国策として排気ガス規制、環境保護活動が進んでおり、タクシーはほとんどプリウスになったのだとか。日本人としての誇りを感じるとともに、相当やり手のトヨタの営業マンがいたのだろうなと感心する次第でありました。街を走るのは、電線につながれた路面電車ならぬ路面バス。もちろん、電車のようにレールがないため、たまに脱線？してバスが止まるとのことでした。カナダは水資源が豊富で、水力発電が盛んに行われており、電気料金はとても安価なのだそうです。オフィスの電気も防犯上の理由から、夜間つけっぱなしの会社も数多くありました。

カナダはアメリカ大陸の北部に位置しており、私の勝手なイメージでは、アメリカ合衆国の子分的な国かと思っていましたが、実はカナダは英国から独立した国であり、独立するときに英国を参考にして国家体制が整備されています。今でもカナダの国家元首はエリザベス女王だそうです。ちなみにエリザベス女王は、他にもオーストラリア、ニュージーランドなど計 16 か国の女王様であることも今回初めて知りました。

日本と同様、バンクーバーも夏は花火の季節。毎年、夏には３週連続で花火大会が催され、週替わりで英国の花火、カナダの花火、日本の花火が打ち上げられ、どの国の花火が良かったかコンテストが行われるそうです。今回、その花火を見る機会に恵まれました。日本の花火大会同様、会場付近は大勢の人だかりで、警察官がその警備にあたっていました。私はここで違和感をもちました。歩くのもままならない人だかりにもかかわらず、とても健全で、安全な場所なのです。それまで「外国＝危険」との固定観念がありましたが、実は、カナダでは、路上や広場での飲酒はご法度、缶ビール片手に花火を楽しむ習慣がないため、路上には酔っ払いがおらず、花火を見に集まった人々は、とても健全に花火を楽しんでいました。花火が終われば、余韻に盛り上がることもなく、皆、静かに家路についていきました。もちろん飲食店や居酒屋、各家庭のテラスや庭ではお酒を楽しむ人は大勢います。

カナダは多民族国家でありながら、花火大会で大騒ぎする人もいなければ、地球環境を考えて、排気ガス規制を積極的に取り入れる、横断歩道では必ず車が一旦停止し歩行者を通す、など紳士的な国民性が感じられ、これはまさしく教育の成果であると感じました。レストランでは、ウェーターが客に気さくに声をかけ、皿が運ばれると客は必ず“Thank you”と声にします。今年、カナダは建国 150 周年ですが、国家として紳士的な人を育てるのは、並大抵の努力ではなかったことが想像できました。日本でも、旅先で、なんとなく教育の行き届いた街と、残念ながらそうでない街の雰囲気を感じることがあります。凶悪な犯罪や詐欺事件などは幼いころからの道徳教育でその大部分は解決できるのではないかと思います。

今回、幸いなことにカナダの良い面だけが見えましたが、おそらく影の部分も多くあることでしょう。マリファナやホームレスは社会問題となっているとのことです。

カナダの旅行中に、上下紺色の制服を着て首にスカーフを巻いている少年たちと、同じ制服を着用した指導者の姿を見ることができました。ボーイスカウトかどうかはわかりませんが、おそらく青少年の育成団体であることは容易に見当がつきました。我々は青少年を教育する者の端くれとして、「健全な青少年の育成」のために各地で小さな努力を積み重ねることが、国の大きな力になるのだと改めて実感しました。人づくりこそが国家の力になるのだと信じています。

バンクーバーの観光名所ギャスタウンの蒸気時計